

部局名:警察本部

## 令和2年度当初予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
1	警察署庁舎整備費	8,513	1
2	交通安全施設整備費	987,214	5
	国補交通安全施設整備費	507,221	
	県単交通安全施設整備費	479,993	
合 計		995,727	

令和2年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 警察本部 警務部会計課

事業概要

細事業名		警察署庁舎整備費					区分	継続	
施策		141	犯罪に強いまちづくり						
基本事業		14103	県民の安全を守る活動基盤の整備						
根拠 (法令等)		警察法第37条、53条							
予算 額 等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
	予算額								
	決算額								
事業の目的		老朽化、狭隘化の著しい警察署について、津波浸水予測や災害警備活動の拠点としての立地・機能等を踏まえ、建替整備を推進します。							
事業目標		日常生活の中で遭遇する可能性のある様々なリスクに対して、県民の暮らしを守るという視点から地域、行政等の関係機関が一体となって備えることのできる社会づくりを推進します。							
前年度からの変更点									
事業の必要性と期待される効果		老朽化、狭隘化が著しい大台警察署の建替整備に向け、移転候補地の調査を行い、治安維持活動、災害警備活動の拠点としての機能強化を図ることで県民の安全・安心を確保することができます。							

## 取組詳細

取組概要	大台警察署移転候補地の調査を実施します。
取組内容等	

警察署庁舎整備事業                      8,513 千円 (2,513 千円)

老朽化、狭隘化の著しい大台警察署の建替整備を進めるべく、移転候補地の調査を行います。



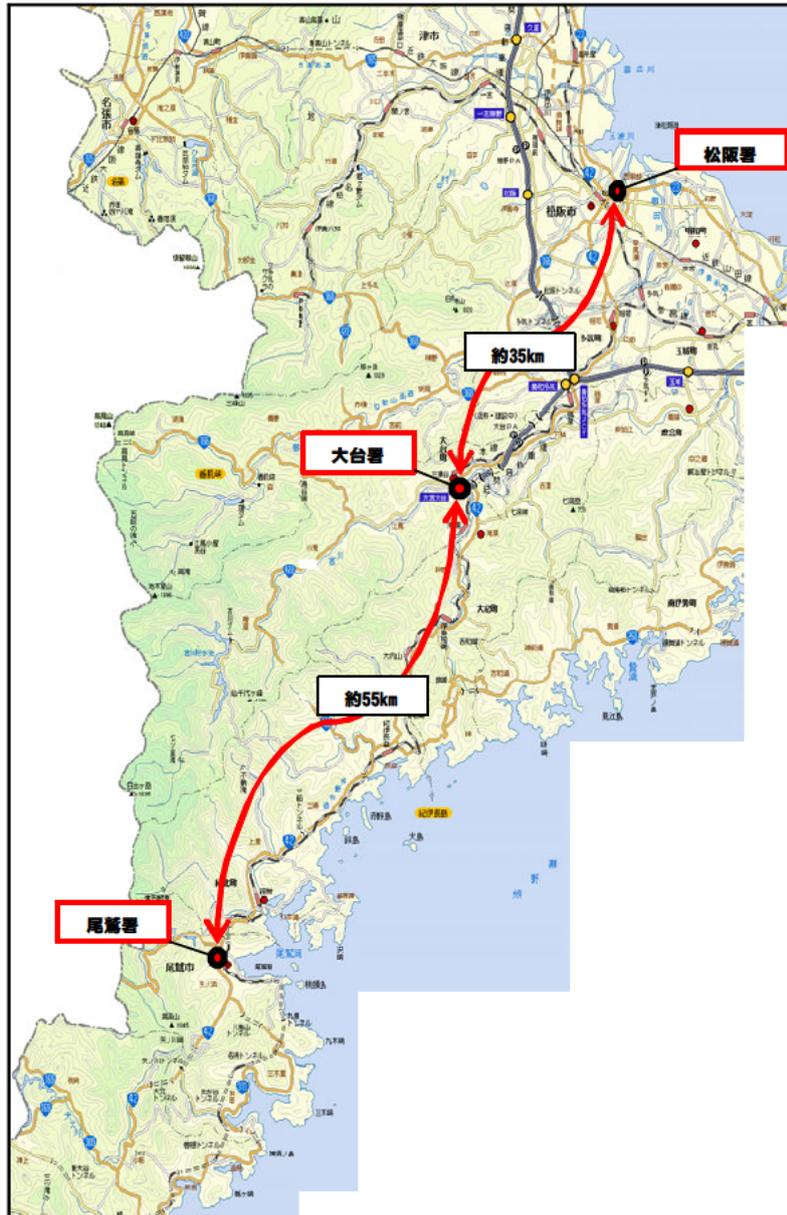
## 老朽化が著しい大台警察署(昭和40年度築)の建て替え

- 建築後リフォームせず約55年経過しました。令和2年度から5箇年度の整備計画を進めて、ようやく築60年目前で建て替えとなります。
- 設計は古く、老朽化も著しいです。庁舎内外に剥離やひびが目立ち、天井の欠損や雨漏りも認められます。下表のとおり、これ以上の使用は困難です。
- 全国に経年60年以上の警察署はほとんどありません(1160署中4署のみ。うち建築中が1署、廃止予定が1署)

機能面の問題の一例	快適性の問題の一例
昭和30年代の設計思想で作られ、現代の行政ニーズに耐えられません。	経年劣化が大きく進み、職場環境としても、来訪環境としても劣悪です。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員増や業務環境の変化により執務室が狭隘に</li> <li>・ 車庫、取調室、相談室、証拠品保管庫等が不足</li> <li>・ 保護室がなく、留置場の構造も古い</li> <li>・ バリアフリーでなく、車いすは通行困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空調が未設置・不調。夏期の住民会合は困難</li> <li>・ 湿気・カビ・下水臭が酷く、トイレと浴室が特に</li> <li>・ 通路で着替え。会議室の一角で当直員が仮眠</li> <li>・ 女性用浴室はない。1階だけにある女性用トイレは男性トイレに間仕切りをしたもの</li> </ul>

注) 中部管区警察局内の各県で経年50年超の署は少なく、岐阜は22署中1署、福井は11署中0署、石川は12署中0署、愛知は45署中10署ありますが毎年1署ずつ建て替え、富山は15署中4署のうち1署が廃止予定で建て替えを伴う再編計画中となっています。

注) 知事部局の施設は、四日市庁舎がリフォーム済みなるも昭和47年度建築と古く、他方で昭和44年度建築の伊勢庁舎は平成23年度に建て替え済みと聞いています。



## 大台署存続の必要性と設計構想・総工費の精査

- 定員40数名の小規模署であり、条件が整っていれば統廃合も一案です。しかし、廃止すれば南北に長い県内で廃止後に隣り合う松阪署・尾鷲署間の道のりは100km近くとなり（概ね津・京都間に相当）、レスポンスタイムの悪化や災害活動拠点の喪失等による影響は甚大です。存続させるべきです。
- 総工費を国交省官庁営繕部の基準で積算すると約21億円です（留置場と道場を省けば約18億円）。他方、他県で同規模署を10数億円で整備した実績があります。今後、災害拠点としての位置付けや、人口減少社会における小規模警察署の備えるべき機能等について検討しつつ設計構想や総工費を精査していきます。（用地は県有地を想定）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実施事項	調査	設計		建設	
所要額	850万円	精査中			

令和2年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 警察本部 交通部交通規制課

事業概要

細事業名		国補交通安全施設整備費					区分	継続	
施策		142	交通事故ゼロ、飲酒運転0（ゼロ）をめざす安全なまちづくり						
基本事業		14203	安全で快適な交通環境の整備						
根拠 (法令等)		道路交通法 交通安全施設等整備事業推進に関する法律 高齢者、障害者等の移動の円滑化に関する法律（新交通バリアフリー法） 交通安全対策基本法							
予算額等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
	予算額								
	決算額								
事業の目的		交通の安全と円滑を確保するため、交通安全施設の整備を進めます。							
事業目標		子ども、高齢者等の交通弱者の安全な通行を確保するため、生活道路を中心に摩耗等により視認性が低下した横断歩道など道路標示の塗り替えや老朽化した道路標識の整備を行い、交通事故防止を図ります。 信号柱の更新等インフラ老朽化対策を推進するとともに、交通管制システムの整備、既設信号機の高度化、未就学児が日常利用する移動経路において信号灯器のLED化を行い道路交通の安全と円滑化を図ります。 大震災を始めとする災害発生時において、避難路、緊急輸送道路などの交通路を確保するため、信号機電源付加装置の整備等、災害に強い交通安全施設の整備を推進します。							
前年度からの変更点		子ども、高齢者等の交通弱者の安全な通行を確保するため、安全対策を行います。							
事業の必要性と期待される効果		道路標示の塗り替え、道路標識の建て替え、信号灯器のLED化等交通安全施設の整備を行うことで交通事故防止を図り、歩行者等の安全の確保が期待できます。 交通管制システムの整備、信号機の高度化等により、安全で快適な道路交通環境が構築され、交通事故の抑止につながることを期待できます。 信号機電源付加装置の整備を推進することで、大規模災害時における避難路、緊急輸送道路などの交通路の確保が期待されます。							

## 取組詳細

取組概要	<p>道路標示の塗り替え、道路標識の建て替え、信号灯器のLED化等交通安全施設の整備を行うことで、道路交通環境の整備、充実を図ります。</p> <p>交通実態等を把握した上で、緊急性、必要性の高い交差点等を抽出し、計画的に既設信号機の高度化や信号柱の更新を図ります。</p> <p>緊急輸送道路と防災拠点や市街中心部を結ぶ主要な信号交差点に自動起動式信号機電源付加装置の整備を推進します。</p>
取組内容等	

国補交通安全施設整備費 507,221千円(46,774千円)

- (1) 信号機高度化・改良 168,218千円(11,430千円)  
既設信号機の高度化、信号灯器のLED化等の改良工事を行います。
- (2) 交通管制センター関係装置整備 91,738千円(5,306千円)  
集中制御機や交通情報板の整備を行います。
- (3) 信号柱更新 47,340千円(4,130千円)  
老朽化した信号柱の更新を行います。
- (4) 信号機新設 32,724千円(2,754千円)  
道路の新設に伴い必要となる信号機の整備を行います。
- (5) 路側道路標識設置 34,200千円(2,100千円)  
高輝度路側道路標識の更新や新設を行います。
- (6) 道路標示塗装 21,960千円(13,208千円)  
横断歩道などの道路標示の塗り替えを行います。
- (7) 防災・減災、国土強靱化のための緊急対策 21,868千円(125千円)  
信号機電源付加装置(自動起動式)の整備を行います。
- (8) 未就学児移動経路等安全対策 78,870千円(4,986千円)  
未就学児が日常利用している道路において信号機のLED化を行います。
- (9) その他 10,303千円(2,735千円)  
交通管制センター上位装置賃貸借料、工事の執行に必要な設計委託料や消耗品など。

令和2年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 警察本部 交通部交通規制課

事業概要

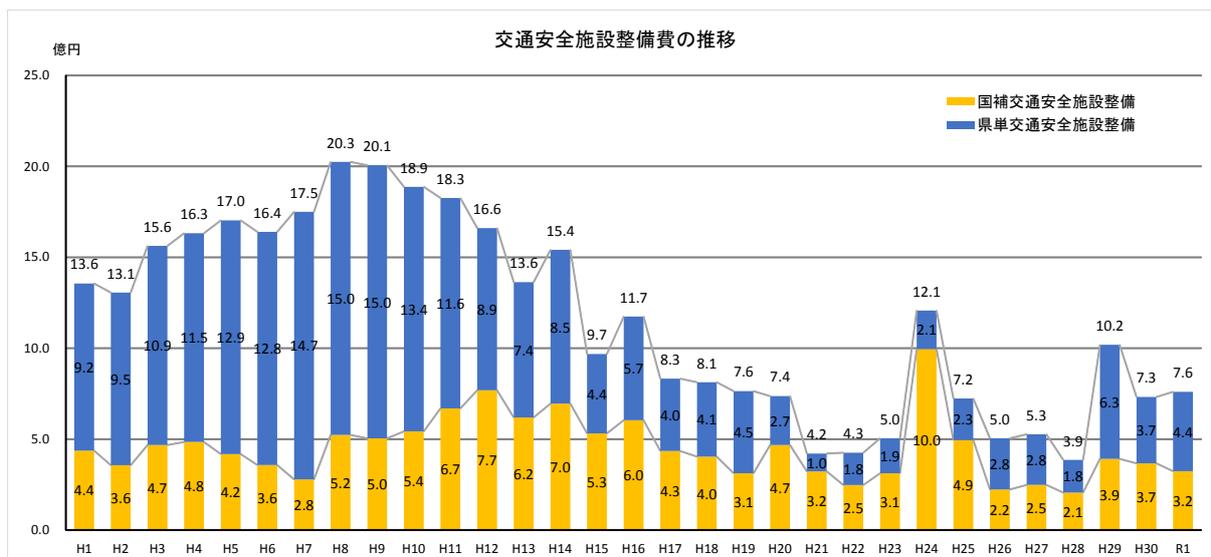
細事業名		県単交通安全施設整備費					区分	継続	
施策		142	交通事故ゼロ、飲酒運転0（ゼロ）をめざす安全なまちづくり						
基本事業		14203	安全で快適な交通環境の整備						
根拠 (法令等)		道路交通法 交通安全施設等整備事業推進に関する法律 高齢者、障害者等の移動の円滑化に関する法律（新交通バリアフリー法） 交通安全対策基本法							
予算額等	年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
	予算額								
	決算額								
事業の目的		交通の安全と円滑を確保するため、交通安全施設の整備を進めます。							
事業目標		子ども、高齢者等の交通弱者の安全な通行を確保するため、生活道路を中心に摩耗等により視認性が低下した横断歩道など道路標示の塗り替えや未就学児が日常利用する移動経路において歩行者用信号灯器の設置などを行い、交通事故防止を図ります。 「みえ公共施設等総合管理基本方針」に基づき、老朽化した信号制御機、信号柱の更新、道路標識の建て替えを行うとともに、必要性が低下し交通の安全・円滑を阻害している信号機を撤去し、安全で快適に通行できる道路環境を整備します。 2021年に開催される「三重とこわか国体・三重とこわか大会」開催に向け視覚障害者用付加装置の設置など交通環境を整備します。							
前年度からの変更点		子ども、高齢者等の交通弱者の安全な通行を確保するため、安全対策を行います。							
事業の必要性と期待される効果		道路標示、道路標識の新設・更新、歩行者用信号灯器の増灯等交通安全施設の整備を行い、交通事故防止を図ることで、歩行者の安全確保が期待できます。 老朽化した信号制御機等交通安全施設の更新や落下・倒壊の危険性がある交通安全施設の撤去により、不具合やトラブルを未然に防止することで、不測の事態を回避し県民の安全を確保できることが期待できます。 「三重とこわか国体・三重とこわか大会」に全国から訪れる選手や観客、大会関係者の安全な交通の確保と事故防止が期待できます。							

## 取組詳細

取組概要	<p>道路標示の塗り替え、道路標識の建て替え、歩行者用信号灯器増灯等の交通安全施設の整備を行うことで、道路交通環境の整備、充実を図ります。</p> <p>老朽化した信号制御機や信号柱の更新や落下・倒壊の危険性がある交通安全施設の撤去などインフラ老朽化対策を進めます。</p> <p>「三重とこわか国体・三重とこわか大会」会場周辺に視覚障害者用付加装置を整備するなど交通環境整備を進めます。</p>
取組内容等	

県単交通安全施設整備費 479,993千円(104,993千円)

- (1) 道路標示塗装 136,442千円(34,442千円)  
横断歩道などの道路標示の塗り替えや新設を行います。
- (2) 路側式道路標識設置 79,800千円(19,800千円)  
路側標識の更新や新設を行います。
- (3) 大型道路標識建て替え 45,000千円(11,000千円)  
老朽化した大型道路標識の撤去や路側標識への建て替えを行います。
- (4) 信号制御機更新 42,000千円(11,000千円)  
老朽化した信号制御機の更新を行います。
- (5) 交通信号柱更新 14,300千円(3,300千円)  
老朽化した信号柱の更新を行います。
- (6) 歩行者用灯器増灯 9,860千円(860千円)  
歩行者用灯器の新設整備を行います。
- (7) 交通安全施設撤去 36,536千円(3,536千円)  
老朽化した交通安全施設や必要性の低減した信号機の撤去を進めます。
- (8) 交通信号機移設等改修 31,860千円(7,860千円)  
電力会社や通信事業者の電柱に共架している信号灯器やケーブル等の移設に対応します。
- (9) 未就学児移動経路等安全対策 3,408千円(408千円)  
未就学児が日常利用している道路において歩行者用信号灯器の設置を行います。
- (10) 三重とこわか国体・三重とこわか大会交通環境整備 76,400千円(11,400千円)  
視覚障害者用付加装置など会場周辺の交通安全施設の整備を行います。
- (11) その他 4,387千円(1,387千円)  
工事の執行に必要な設計委託料や消耗品など。



## 交通安全施設等の整備

### ○要求額

- ・ 国補+県単で約9億8,721万円
- ・ 事業費ベース。国庫補助金約1.9億円を含み、通信回線料等の維持費を含まない。
- ・ 公債の手当ては約6.5億円見込み
- ・ 前年より約2億3千万円増

### ○内訳

- ・ 信号機 約6.4億円 (制御機、灯器、音響装置、支柱、非常電源、中央装置等)
- ・ 道路標識 約1.6億円 (横断歩道、速度規制、一時停止等)
- ・ 道路標示 約1.8億円 (横断歩道、停止線、追越し禁止等)

### ※) 検討のポイント

- 平成中期以降の関連予算の大幅減少により、整備済み施設 (信号機は約3,200基 (1交差点の一式を1基と数える。)) の老朽化対策 (更新又は撤去) が遅延しており、信号機の新設は大幅に抑制せざるを得ない。
- 人口動態や財政状況等も踏まえた持続可能な施設整備の在り方については、関係機関の参画も得、早急にその方向性を示したい。
- その上で、当面、厳しい財政事情と交通安全対策上の喫緊の課題 (子どもの保護、国体対応等) をどう調和させるかがポイント



## 令和2年度の整備基本方針

1. 信号機の新設は限定的に以下の箇所のみ行う（約3,200万円）
  - 道路の新規整備・拡幅に伴うもの 4箇所
  - 通学路の安全対策に関連するもの 1箇所
2. とこわか国体・とこわか大会対策を年度内に手当する（約7,600万円）
  - 視覚障害者の競技会場付近の信号機に音響装置を付加
  - 他の競技会場付近やアクセス道路の重要地点にある古い灯器をLED化
3. 未就学児対策・生活道路ゾーン対策を推進する（約1億1千万円）
  - 緊急安全点検で把握した危険箇所のすべてに歩行者用信号やLED灯器を整備
  - 自治体と共同で行うゾーン対策で歩行者用信号や30km規制標識を整備
4. 横断歩道の塗り替えを優先措置する（約1億1千万円）
  - 緊急安全点検で判明した危険箇所は今年度内に全箇所を措置
  - その他の見えにくい横断歩道と停止線（約1,300本）を塗り替え
5. 以上のほか、所定の更新時期を超えた制御機、灯器、支柱等のうち、点検の結果、故障又は倒壊の危険性があるなどの著しい老朽化が確認されたものを優先的に更新整備する